

合理的配慮の提供事例報告書【小学校】

事例の概要

心理面をサポートしながら、個別の指導や小集団指導において、適切な行動や集団活動に参加するための指導を行った。その際、タブレット型端末や電子黒板、イラストと言葉でまとめたルールブックなどを使用し、本児が興味をもって適切な行動を学ぶことができるように進めた。保護者と話し合っ、個別の教育支援計画・個別の指導計画も作成している。児童の実態に合わせて、その都度、指導の方向性については話し合い、同一歩調で支援・指導が行われるようにしている。

1 対象児童の障害種

自閉症

2 障害の程度

※学校教育法施行令22条の3に該当か非該当か

3 在籍状況

小学校・特別支援学級

4 学年

小1

5 対象児童の実態

自分に話しかける人に対して攻撃的、否定的な言葉遣いが多い。
自分にとって不利なことが起こったときには、その原因となった物を投げる、踏む、叩くなどの行動が見られる。
落ち着くための行動を探すことが多い。
感覚が過敏で、長袖を着ることに抵抗があったり、少し当たるなどの軽い身体接触を強い衝撃に感じ、叩かれたというような感覚をもってしまったりすることがある。
嗅覚も過敏で、学校のトイレに抵抗がある。
日常生活の中で、やりたいことへの欲求やにこだわりがかなえられないと感情のコントロールが難しくなり、時としてパニック状態になる。
集中が途切れやすいため、タイミングを見て声かけをしたり、視覚支援を行ったりする必要がある。

6 対象児童についての合意形成に至るまでの経緯

(1 誰からの申し出か 2 申し出の内容 3 連携、調整した関係機関 4 合意形成に至った結論)

・入学前に園での様子を観察させてもらったり、サポートファイルを手渡してもらったりして、児童の実態把握を行った。
・入学に向けて、懇談を行ったり、通常学級や支援学級の見学をしていただいたりし、小学校では、特別支援学級へ入級することに決定した。
・入学後、支援学級担任が中心となり、児童の実態に合わせた学校での指導や家での指導について話し合った。個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成した。
・成長が見られたり、何か問題が起こったりするなど、変化があったときにはその都度、指導の方向性を確認しながら進めていっている。

7 基礎的環境整備の視点と概要

基礎③ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導

保護者と担任で話し合い、児童の個別の目標や合理的配慮についての合意形成を図った。個別の教育支援計画・個別の指導計画は、年度初めに懇談を行い作成した。年度末に評価し、来年度へ引き継いでいく予定である。

基礎④ 教材の確保

集中時間が短いので、興味をもって活動に参加できるよう、また、集中が持続するよう、電子黒板を学級に設置した。また、タブレットやパソコン等を使い、映像を見ながら、学習を進められるよう環境を整備した。

8 合理的配慮の観点と概要

合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

個別の指導や小集団指導において、適切な行動や集団活動に参加するための指導を行った。

「にこにこノート」の作成

学校生活や、友達関係における「こんな時はこうしよう」というルールを具体的な例を入れながらイラストと言葉でノートにまとめる。学校だけではなく、家庭でも親子でノートを繰り返し読んでルールを確認する。

(ルールの例)

- ・「人を呼ぶとき指でつつんすることがある(いじわるではない)」
- ・「しんどいときは“支援学級へ行きます”と言う」
- ・「嫌だ」と泣く前に「何が嫌なのか」を伝える

合理①-2-3 心理面・健康面の配慮

服薬の影響で食欲がないときには、栄養補給のゼリーや飲料水を準備してもらうようにした。

嗅覚が過敏で、児童が使うトイレの使用が難しいときには、体育館のトイレ等、本人が使用できる場所を提供し、安心して学校生活を送ることができるよう配慮した。

交流学級の授業に参加できるように、「するか、しないか」という極端な選択ではなく、「半分だけ参加する」「できそうなところだけ参加する」なども大丈夫であることを、視覚的に提示した。

パニックになりそうときには、「交流学級の担任の許可を得ることで、支援学級に行ってもよい」というルールを本人と確認した。

保護者とも相談し、児童の感じ方や苦手なこと、得意なことをクラスや地区の友達に伝えることで、周りの理解が得られるよう啓発を行った。

主治医からも、学校や家庭の支援が適切かどうかアドバイスをもらっている。

9 成果と課題

「小学校へ入学」という変化の大きな一年であったが、支援学級が安心の場所となり、そこを核に学校生活に慣れることができた。落ち着かないときやしんどいときにも、支援学級で感情をコントロールしながら交流学級の授業にも参加することができている。また、泣いたり、ただ「しんどい。」というのではなく、何を言ったら先生に気持ちが伝えられるかということが分かっている。さらに、「決められた時間を守る」「冬は長袖を着る」など、学校と家とで一緒に「にこにこノート」で確認していている約束が入りつつある。

しかし、まだ自分本位の行動が目立ち、人との関わりにおいて課題がある。自分が「どう感じているか」、「どうしたいか」といったことを優先している様子が見られるので、クラスの中で自分がどうすべきかというところを入り口に、適切な行動を学ばせ、人間関係を広げていくことができるように支援していきたい。